

feature interview

DJ MOTOYOSI & DJ A-KAY

次世代期待の星、“HIGHER”コンビのMOTOYOSI & A-KAYが巻頭初登場！フレッシュさとタフさを兼ね備えた、二人の初インタビューを要チェック！

■ HARLEMでDJをする前は、どんな感じでしたか？

MOTOYOSI (以下M) : 普通にレコードを買って趣味でDJをやっていたので、HARLEMに遊びに来て単純に楽しんでいただけなんですけど、その内自分もHARLEMでDJをやりたいと思うようになって、そこからはHARLEMでプレイすることを自分の目標にしてDJをやってきましたね。どうしたらHARLEMでDJができるんだろうって考えていた所に、HAZIMEさんと知り合って相談して、そこからですね。

A-KAY (以下A) : オレは、遊びに来始めた時から「いつかはHARLEMのDJブースに立ちたい」って思っていました。でもどうしていいかわからなかったから、普通に楽しんでましたね。酒飲んで、ナンパして、フラれて(笑)。だけど、HARLEMで遊ぶ以外はレコード買って、DJのスキルをあげるために練習して、HARLEMのレギュラーDJやスタッフの人達にCDを渡して、チャンスもらえたら儲けももってという感覚でやってきて。そうやって徐々にDJをする立場の方にまわっていったんじゃないですかね。

■ 実際にHARLEMのDJブースに立って、実感したことは？

M : 遊びに来てお客さん全員を楽しませるっていうのがすごく難しい事なんだって思い知らされました。と同時に、やっぱりレギュラーDJの人達はスゴイ人だなんて実感しました。同じ雰囲気にしたわけじゃないけど、「盛り上がってる感」だったり「ザワザワ感」を一日出すって難しいことだし、スゴイことなんだって思います。遊んでた時は当たり前で聞いてたけど、自分がやり始めたらスゴイことなんだって気付きました。でも、レギュラーDJの人達が今まであまりやっていない事は、遊びながら感じてきたつもりだから、そこはどんどんやっていきたいです。

A : オレは最初にHARLEMでDJをした時は、全身が震えて、「天井高いな」って思いながらやって感動的でした。ただ、HARLEMで他のクラブと違って広い分音の鳴りがダイレクトに自分に返ってくるので、自分の下手なところはすぐに気付いちゃうし、そういうのが最初は悩みでした。OPENしてすぐの時間はお客さんがあんまりいないから、お客さんに吸収されるはずの音が自分に返ってきて、下手な部分がダイレクトに分かっちゃうんで、「オレってすごい下手かも」って思う時があります。

オレの場合“HIGHER”と“The Finest”でプレイする時に意識してるのは、どれだけ若さと勢いを出せるかだと思っています。レギュラーDJの人達は凄いハイレベルで賞状もあるし、それぞれ経験を積んで成長しているんだと思うんですよ。だけど若いうちは、そういう人達に追いつこうとか同じハイレベルな事をやろうと背伸びするんじゃなくて、若い時にしか出せない、いい意味での若さや勢いが凄く大事だと思うんですよ。

■ そもそも、二人の出会いは？

M : お互いがレコード屋で働く前から若干知ってたりはしたんですけど、歳が近いこともあって働き始めてから一緒に遊びに行くようになって。“NO DOUBT”にはホント毎週来てましたね。

A : 毎週土曜日は欠かせない、みたいな感じで。

M : それから、A-KAYが他の箱でDJやり始めて、そこにオレも遊びに行くようになり、オレも同

じ所でDJするようになったけど、一緒にDJすることはなくて。お互いのDJはすごい聴きに行っていましたね。オレがまわす時は聴きに来てくれてたし、A-KAYがまわす時は行ってたし。

■ その頃からお互いに「こいつはやるな」と思ってた？

M : 「こいつは若いのにやるな」とオレは思っていましたけど(笑)。

A : MOTOYOSIは、歳が近いうちって年上だからお兄ちゃん的な存在で、遊びに行くよりは連れてってもらってという感覚だったんですよ。そこでMOTOYOSIの遊んでる時のノリや酒の飲み方を見て「こいつカッコイいな」って思ってたんですよ。次の日を全く考えない遊び方とか(笑)。金もゼロになるまで使うし、そういう所に男のカッコ良さみたいなものを感じて(笑)。一緒にDJしたいと思ってた頃にちょうどオレが“The Finest”をMOTOYOSIが“NO DOUBT”のOPEN UP DJをやりに始めて、お互いがHARLEMでプレイするようになりました。しばらくして“HIGHER”をやることになって、最初は「このいい加減な人と一緒にやれるのかな」っていう心配は多々あったんですが、お陰様で何とかやれてます(笑)。それに、今だに一緒にDJをする機会よりプライベートで遊んでる回数の方が多いですからね。

M : 一緒に遊んでたから、「こういうのが楽しい」っていう価値観が似ていると思うんですよ。

■ 具体的にはどういう雰囲気にしたいですか？

A : 現時点で“HIGHER”に関して言えば、週末に劣らない派手な感じがありつつも週末にはかからないようなコアな曲も織り交ぜて、それが一日の流れとしていい雰囲気であればいいな。難しいことではあるけど、出来るんじゃないかとも思うんですよ。

M : 週末はお客さんが何倍も入ってるから、やっぱり盛り上がり度的にはいいのかもしれないけど、“HIGHER”では平日ならではのコアな曲だったり、ちょっと突っ込んだ所なんかを残しつつ、お客さん第一で盛り上がってる感を常に出してあげたいかなと。まあ、みんなが言う程お客さんは曲を知らないわけでもないなって思うし、お客さんがたくさんフロアに入って来て踊り始めたら、「どんな曲でも」ってわけじゃないけど展開によってはいけるんじゃないかなってのも感じて。新しい曲も古い曲も色々かかって、いい意味でゴチャゴチャした感じで、オレが知らないお客さんも「おう、MOTOYOSIいっしょに飲もうぜ！」なんて言ってきちゃうくらいのアットホームな雰囲気にしたいです。

A : 「この曲はいい」とか「この曲はダメだ」という問題ではなくて、自分が「良い」と感じた曲はやっぱりかけていかないとはいけないし、DJがどんどんかけて流行らせると意識は常に持ってないといけないと思うんですよ。あとは、突き放した感を感じさせないようにしたいですね。選曲的にはある程度突き放してるのかもしれないけど、「突き放してない感」をうまく出せるといいかなと。週末の方がお客さんが入ってるけど、問題はお客さんがどれだけ入ってるかじゃなくてどれだけ楽しい雰囲気にできるかだと思ふし。酒も飛び交い、男と女がフロアで踊り、更にMOTOYOSIがブースで踊ってるって(笑)。お互いがDJをやらない時



でも、早い時間にまわしてるDJもオレらも、お客さんを楽しませるようにいつも以上に率先して酒を飲んでるし。そういうみんなの頑張りがあったっていい雰囲気になってると思っています。

M : そういえば、お客さんとして遊んでた時には、レギュラーDJの人達のプレイで普段はアガらない所までテンションを持って行かれちゃった事があったから、そういう所は意識してます。そういう時って曲順をキレイにまとめて持って行けないんですよ。その日のお客さんのノリとかそれまでの選曲の流れの中で急にひらめいた事をぶつつけ本番でやってみて、ハマるかハマらないかで、もちろん思いっきりスベっちゃう事もあるし、逆に凄く盛り上がっちゃう事もあるから、そういう所は怖がらずにやって行きたいと思っています。

A : そういって思い出に残ってるのが、HAZIMEさんが月に1回くらい必ず「この人、神様ですか？」っていうようなプレイをする時があった。本人に「今日ヤバかったですね」って言ったら、HAZIMEさんも自分で「今日、神様降りてきたから」って言った時がありましたね。

■ それぞれ金曜日と土曜日のOPEN UP DJをやっている、それぞれ感じることは？

M : OPENからLASTまで毎週いて、お客さんが入ってきてからどうやってフロアに押し、徐々に盛り上げていってピークを作って、最後に気持ちよく帰ってもらえるかっていう所を見てくるから、そういう面では同世代の他のDJよりもいい経験が出来てるんじゃないかという自負はあります。もちろん“HIGHER”でもその経験を生かしてやってるつもりだし。

A : オレが金曜日にやっていると心掛けていることは、OPENの時間はお客さんが少なくって徐々に増えていく感じだから、その中でどれだけフロアにお客さんがいるのかって事ではなくて、どれだけフロアの入口の扉を大きく開けてあげられるかっていう所ですね。そうするためには、OPEN UP DJだからR&Bばかりかけてゆるくて分かりやすい感じでやればいっていいかっていうと、そうではなくて、逆にお客さんを一回温めてあげる必要があると思ってる。運動する時もそうだけ準備運動的な感覚を植え付けてあげると、次に替ったDJが何をかけてもお客さん

はフロアに行きやすいと思うんで、そういう感覚を植え付けることを重点においてやってるつもりです。やり始めた時はそんな余裕もなかったんだけど、もう3年近くやってきてオレが一番扉を開いてるかなと(笑)。逆にそういうことをしなかったら、替わった後のKEN-BOさんやWATARAIさんがまた最初から雰囲気を作っていかなくちゃいけないと思うから、そういう状況をなるべく避けたいって思ってます。

■ 今後の予定は？

A : 親に渡して恥ずかしくない作品って、現時点ではオフィシャルのMIX CDだと思うんで、是非やってみたいです。若手で勢いのあるヤツにMIXしてもらいたいというメジャーレーベルの方がもしいたら、声を掛けてもらえたら嬉しいですね。

M : MIX CDは是非やりたいですね。あと、トラック制作もやります。

■ 読者に一言。

A : オレらのDJを聴いたことのない人でも「今日楽しかったね」って言わせる自信をオレらは持っているし、DJだけじゃなくフロアでも普通に踊ったり、ブースでも自分でかけた曲に酔っちゃって自分もアガってますみたいな感じでDJしてるから、お客さんもそれを見て一緒に楽しんでもらえるんじゃないかなと。多分お酒もおいしく飲んでもらえると思うし、“HIGHER”はアットホームなパーティーだから、初めて来た人でもみんな友達になれるような雰囲気だし、是非オレらのDJを聴きに来て欲しいです。今あるパーティーでは、こんなにテンションが高くて新鮮さがあるものは“HIGHER”以外にはないと思ってるんで、フロアも盛り上がっていい雰囲気だし、一体感もあるんで、多分やみつきになると思います。

M : 火・金・土曜日のレギュラーパーティーは意識しつつ、そこにはない部分も出せてると思うんで。“HIGHER”は今凄くいい雰囲気だし、これからもっと良くしていく自信もあるんで、まだ来たことのない人は是非一度足を運んでみて下さい。オレとA-KAYは見かけによらずいいヤツなんで、話しかけてもらって全然構わないし。あと、オレのことをいきなり「うどん!」と呼ぶのはやめて下さい(笑)。☺